

# 会社の悩みは、 運動会で 解決しよう!

売上を上げたい  
部署間の垣根を取り払いたい  
社員のモチベーションを高めたい

五つ星の運動会マイスター

**米司隆明**

Takaaki Yoneji

クロスメディア・マーケティング



## はじめに

私が代表理事を務めるNPO法人・ジャパンスポーツコミュニケーションズ（以下「JSC」）は、社員を笑顔に、企業を元気に、そして、日本経済を活性化するために、社内行事としてのスポーツイベントを企画から運営までサポートしています。

私たちは、社内スポーツイベントを単なるレクリエーションとして楽しむためのものでなく、開催目的やテーマを明確にすることで、様々なメリットが見出せるものであると考えています。

社内スポーツのメリットには、以下のようなものが挙げられます。

- ・ 社員のモチベーション向上
- ・ コミュニケーション不足の解消、他部署との交流作り
- ・ チームワークの醸成

## はじめに

- ・ 組織の一体感の獲得
- ・ 健康増進、メタボリック対策
- ・ 企業イメージの向上、他社との差別化
- ・ 離職率の低下
- ・ 新卒採用の人气向上

ここで、「そんな効果ある!?」と疑問に思った方こそ、是非本編まで読み進めてください。

社内スポーツの中でも、私たちが特に力を入れているのがJSCの運動会部門「運動会屋」です。

昨年は年間112件の運動会をサポートし、今年は既にそれを上回る件数で日々運動会を開催しています。

組合や学校、地域のイベント、SNSをきっかけにした、見知らぬ人同士が集う一般参加型のものまで、様々な運動会を開催していますが、主なクライアントは企業の方々です（特殊な例も含めケーススタディでご紹介いたします）。



産労総合研究所が発表した最新の『社内行事と余暇・レク活動』調査によると、アンケートをとった3千社のうち、約85%の会社が、社内行事や余暇におけるレクリエーション活動を行っていると回答しています。

約20年前は、同様の頻度で社内行事が行われていましたが、この数字はその後10年の間に70%近くまで落ち込みます。リーマン・ショックなどの影響で、そのようなことに時間や費用を割く余裕がなくなってしまった会社が増えたことによるものでしょう。

その数字が回復基調にあるということは、もちろん不景気を脱しつつあるということもありますが（運動会の開催で、「私たちもそれに少しは貢献しているのでは？」と密かに思っています……）、それ以上に「社内行事の必要性が見直されつつある」という要因が大きいのです。

一般的には、社内行事の効果として、「社内コミュニケーションの活性化」、「モチベーション向上による業績アップ」、「部署間の仕事の円滑化」といったものが期待されます。

仮に社内行事に参加したことがない方でも、何となく「会社側が行事をするこ

とでこんな効果を得たいと考えているのだろう」ということは納得していただけるでしょう。とはいえ、そのような「何かしらの効果」を期待して行われる社内行事の中に、「運動会」という選択肢が浮かばない方も多いのではないのでしょうか。

しかし、僭越ながら断言させていただきます。

いま最もホットな社内行事は運動会なのです。

なぜ企業は、この時代に社内行事として、運動会を開催するのか――。

もしかしたら、その理由はピンとこないけれど、バブル絶頂期に社内運動会を経験したという読者の方もいらっしゃると思います。そのような方からすると、現代の社内運動会は毛色が異なります。

終身雇用や年功序列型でまともだった日本企業が、IT時代の到来によって成果主義へとシフトし、運動会もまたその時代に合わせて目的や姿を変えています。かつての社内運動会は、バブル期の価値観を反映するように、とにかくゴージャスに、従業員や家族、取引先が参加して、壮大なレクリエーションとして開



催されていました。

しかし、現在の社内運動会は、ほとんどの場合単なるレクリエーションとして開催されることはありません。問題解決のためのソリューションとして、社員旅行や飲み会など、数ある選択肢の中から選ばれているのです。

運動会をやることで、コミュニケーションや絆を深め、離職率の抑制につながり、モチベーションや売上の向上をもたらすとしたら——皆さんの会社でも、運動会をやってみたいと思いませんか？

ここで、「やってみたい」よりも、眉唾ものだと感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、社内行事としての運動会の効果や内容は、本編でたっぷりお伝えいたしますが、ここでお伝えしておきたいのは、私たち運動会屋のリピート率は約90%であるということです。

クライアントは新進気鋭のベンチャー企業から、何千人という人数が参加される一部上場企業まで多岐にわたっています。依頼は北海道からも沖縄からも寄せられ、大規模なものでは6千人が参加する運動会も手がけています。ちなみに現在、1万人規模の運動会も計画中です。

実際に運動会屋にご依頼いただいた、企業の担当者様の声も本編でご紹介しますが、これは、キャリアも日頃の業務内容も考え方も一様ではない、多種多様なクライアントを満足させ、対価を支払うだけの効果があると納得させる力が運動会にはある、ということの何よりの証拠です。

社内行事としての運動会に対するイメージを特に持っていなかった皆さんが、この本を読んで「うちの会社でも運動会をやろう！」「会社のために運動会をやった方がいい！」と感じ、バブル期以来となる第2次運動会ブームが到来することを願っています。

そして、経済学者に「全ての企業が運動会をやったら、GDPが10%アップする！」と分析してもらえるような社会を、私たちは本気で目指しています。

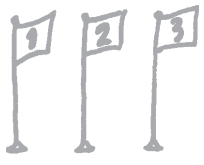
その道の途中で、この本をお読みいただいた方と運動会でお会いすることができたなら、これほど嬉しいことはありません。

はじめに

NPO法人 ジャパンスポーツコミュニケーションズ  
代表理事 米司隆明

---

**CONTENTS**



2 はじめに

## — 第1章 —

### 経営課題は 「社内運動会」が解決する

- 18 運動会で「会社辞める」の止めました
- 22 社内運動会の3つの効果
- 24 福利厚生以上に、問題解決が目的！
- 25 コミュニケーション不全を改善する
- 29 部門間の壁を取っ払う
- 32 大企業、歴史ある企業ほど効く！
- 34 外資超一流金融会社も期待する「日本式運動会」

## — 第2章 —

### 社内行事は 費用対効果で考える

- 60 社員旅行でもなく飲み会でもなく、運動会な理由
- 61 社員旅行は少人数の絆を深める
- 63 飲み会は幹事の運営次第

- 37 運動会を仕切れる社員は仕事もできる
- 38 全社の意思を統一し、ヒットを生み出す
- 45 各企業に聞きました。
- 48 なぜ、社内運動会をしたのですか？
- 48 運動会だから起きるケミストリー
- 50 **Case study 1** 住友電装  
従業員、家族をつないだ大運動会

- 64 社員旅行は数千万、運動会は数百万  
67 運動会に1億円かけた会社  
68 スポーツには会社を一つにする力がある  
72 旅行も飲み会も運動会もまとめてやればいい  
76 **Case study 2** ガリバーインターナショナル  
2千人の大運動会、1億円かける価値あり

— 第3章 —

社内運動会、  
どうやってやればいい？

- 86 さて、どこでやろうか運動会  
88 「怪我をしたらどうしてくれる！」の備え方  
92 運動会の運営の流れ

- 97 チーム毎のビジュアル化は手抜きなく！  
99 社内運動会を成功させる心構え五箇条  
102 **Case study 3** インゼ  
近年まれに見る感動・歴史に残るイベントに

— 第4章 —

こんなおもしろ運動会  
できます！

- 112 ちょっと運動しない運動会  
114 「よーいどん！で恋したい」  
115 各社オリジナル競技がおもしろい  
120 何百と数を重ねて磨かれた「鉄板プログラム」  
121 「大縄跳び」で心も体もほぐす

122 「綱引き」で全員のテンションを上げる  
123 やはり締めは「リレー」  
125 「借り物」ならぬ「借り者競争」で部署を越えた交流を  
127 定番競技にも様々な効果  
127 「ムカデ競争」はコミュカとリーダーシップが問われる  
128 「玉入れ」は社員の意外性が見てとれる  
129 「徒競走」は仕込みが9割  
131 大人の運動会は一大テーマパーク  
136 1位は松阪牛、4位は焼きそば!?  
137 こんなおもしろ運動会、やりました

144 Case study 4 ―ベンチャーバンク(ポットヨガスタジオLAVA)

実感した運動会効果!

― 第5章 ―

僕が「へんな」ビジネスを  
「まじめ」にやる理由

154 とにかく社長になりたかった少年時代  
155 金融会社と―Tベンチャーでの社会人生活  
157 NPO法人  
「ジャパンスポーツコミュニケーションズ」の設立  
159 スポーツで社会の問題を解決する!  
160 震災時に知ったスポーツの重要性  
162 フットサルから始まった  
164 そうだ、運動会をやろう!  
165 知人の会社で初の社内運動会!  
167 初めての受注、いきなりの大阪遠征  
169 当初は家族と運動会!?



172 カゴが小さすぎる！やってみて気づく失敗の数々  
174 目指すは世界！“UNDOKU KA”を広めたい

179 おわりに